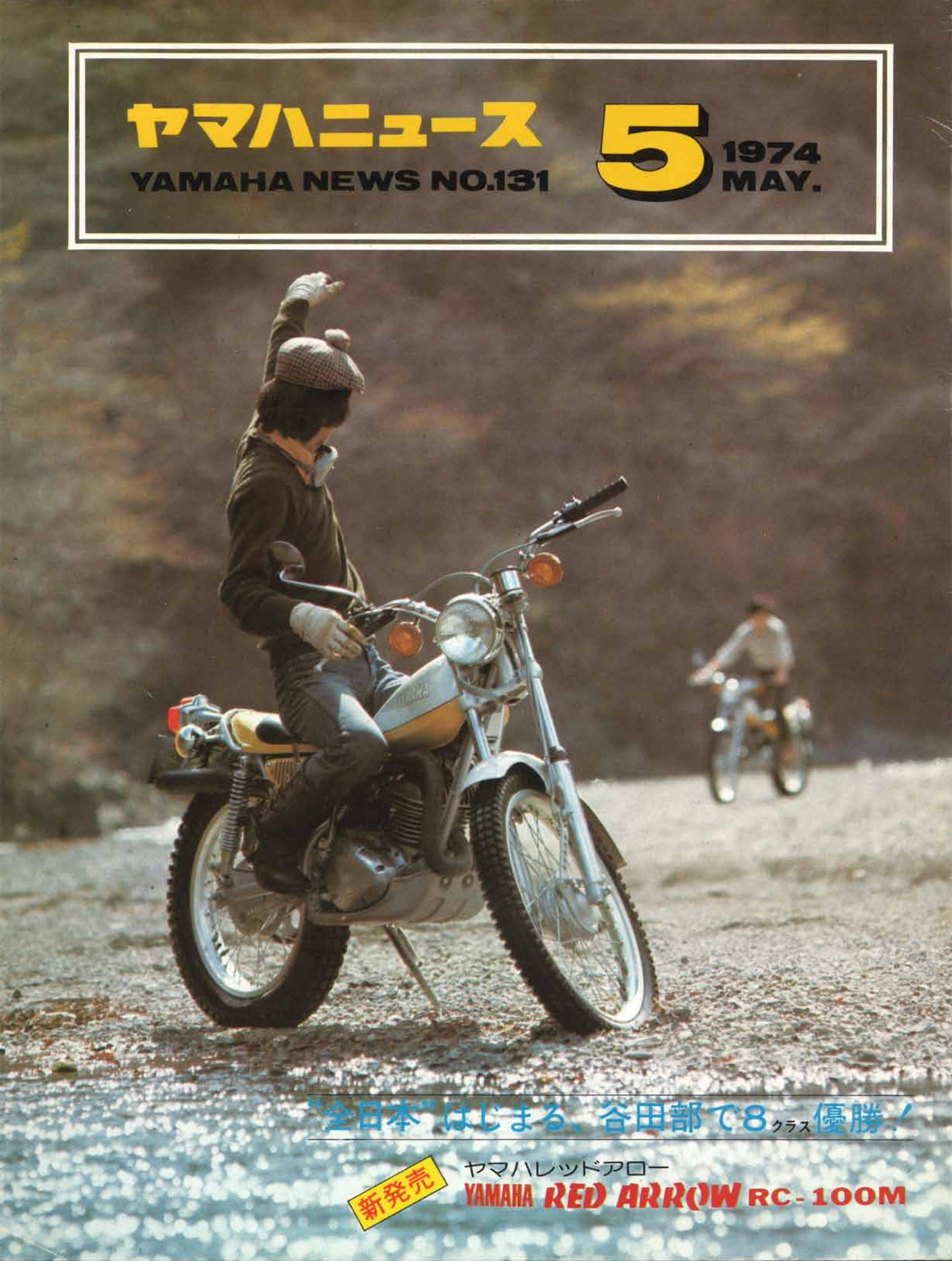
ヤマハニュース

YAMAHA NEWS NO.131

5 1974 MAY.



"全日本"はじまる、谷田部で8クラス優勝！

新発売

ヤマハレッドアロー

YAMAHA RED ARROW RC-100M

5月のヤマハ

健全なモータースポーツの世界を拡げるYAMAHA
50c.c.需要の拡大で経営基盤の強化へ

4月にスタートした販売促進プラン“ゴー！ ゴー！ ヤマハ(Go Go YAMAHA)”いま全国的なスケールで展開されていますが、あなたのお店では、どんなプランでお客さまの心をとらえたでしょうか。すばらしい成果のご報告をお待ちしております。

日々みどりが鮮かになるにつれ、モータースポーツの活動もようやく本調子。4月7日谷田部では全日本選手権モトクロスの第1戦が、また富士スピードウェイではクラブマンレースもシリーズ第1戦が幕を開け、それぞれに盛況のうちにスタートしました。

町中で、近郊で、働き遊ぶ大小のモーターサイクリストの姿もひときわ目につく陽気のよい季節。お店のご繁昌をお祈りします。

〔表紙のことば〕

新しいモーターサイクルスポーツとしてトライアルの人気が急速に盛りあがっている。

モーターサイクルをいかに確実に、巧みに乗りこなすか、その操縦技術を競うトライアルは、いってみれば競馬に対する馬術のようなもの。ロードレースやモトクロスのように抜きつ抜かれつの派手なシーンは見られないが、その内容はモーターサイクルの基本をなすものだけに奥深い。

『ヤマハトライアルTY250J』の発売が日本のトライアルの普及に一役買うものであることはいうまでもないが、トライアルを通じて操縦技術の向上を図り、ひいては安全運転の高揚へと、この新しいスポーツを健全なものへと育てていこうではないか。

●ヤマハ発動機株式会社
〒438 静岡県磐田市新貝2500番地 〈0538〉(2)1111(大代)

●北海道ヤマハ
〒063 札幌市西区24軒1条7丁目35 〈011〉(641)2711

●仙台支店
〒983 仙台市日の出町3丁目8－36 〈0222〉(94)6121～6

●東京支店
〒104 東京都中央区銀座8丁目9－13 〈03〉(572)2021
(銀座オリエントビル)

●名古屋支店
〒462 名古屋市北区辻本通2丁目34 〈052〉(913)2121

●大阪支店
〒550 大阪市西区北堀江通4の27 〈06〉(538)7331

●四国支店
〒760 高松市松島町3丁目22の9 〈0878〉(31)1661

●九州支店
〒812 福岡市博多区博多駅中央街8番36 〈092〉(41)3606
(博多ビル)

ご紹介します

私のGo Go

YAMAHA

売れる時期にこそ、売上げを伸ばそう！　50cc車にマトを絞り、拡販に直結する、春のキャンペーン「Go Go YAMAHA」がスタートしてひと月。全国各地でユニークなアイディアを盛込んだ催しがお客さまの大きな反響を集めて展開されています。

北と南、ふたつのユニークな展開例をここにご紹介します。

お店の開催プランの参考にぜひどうぞ——。

〝ドカーン〟と威勢よく花火もあがってGo Go YAMAHA〝よしむら祭〟はいま最高潮

年に一度、恒例の感謝祭を「Go Go YAMAHA」で!!

茨城県結城郡八千代町管谷
吉村サイクル
吉村　庸造社長



毎年春の需要期・四月になるとお店の前の空地で、ユニークなアイディアを盛込んだ〝よしむら祭〟を開催して、町の人びとに親しまれているサイクルストアのよしむらさん。

ちょうど今年は「Go Go YAMAHA」キャンペーンの開催中とあって、吉村さんはすぐに恒例の感謝祭・よしむら祭をGo Go YAMAHAのメインプランとしてアレンジしたものです。

内容はオールヤマハとノド自慢、三十発の花火がいやがうえにも雰囲気をもり上げます。

大熱演に二千人のお客さまが!!

祭りの当日四月十三日は、快晴。店頭には50c.c.から750c.c.までのオールヤマハ、トライアルTY250J、モトクロッサー、ロードレーサーが、はなやかに整列。会場の空地には舞台もしつらえられ準備も万全です。

夕刻、下校の途中の高校生が三々五々、店頭を訪れてはチャピィに、ミニに、そしてTXにまたがって談笑はつきません。やがて五時威勢のいい三発の花火を合図に一週間前から有線放送でPRの〝よしむら祭〟の幕開けです。

一時間ほどで屋台も出そろい、ガランとし







（右）〝ヤマハ ヤマハ、ヤマハメイト、ヤマハメイトはらくらくメイト……なんてCMもとびだして、雰囲気まん点のノド自慢会場

（上）MXクラブ員も、きょうこのときはウデ自慢ならず〝のど自慢〟で会場を湧かす

（下）「さあ、仕度は出来たぞ！」 あとはお客さまを待つばかりのサイクルストア・よしむらさんのお店

ていた会場も人で埋まり、舞台では五才の坊やから七十八才のおばあさんまでが得意のノドを競いあいます。

うた声のあい間をぬって夜空にみごとな絵模様を浮かべる花火、舞台の熱演に聞入る家族づれ、反対側では焼イカをほおばった子供や、若いカップルが、ヤマハに見入っています。こうして八千代の〝Go Go YAMAHA よしむら祭り〟は、夜の十時まで熱気のさめることなくつづくのです。

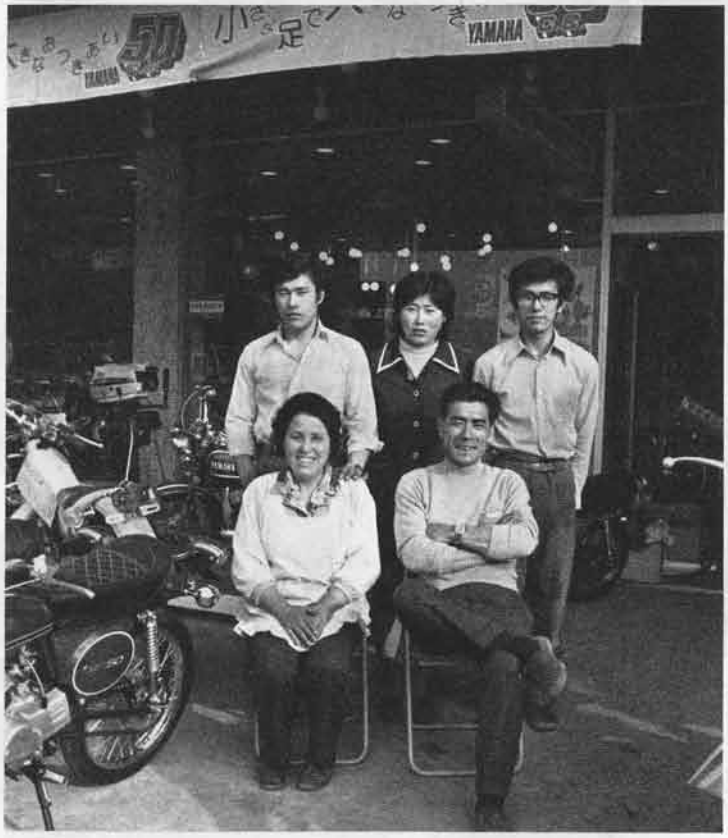
キャンペーンPRは販売促進の潤滑油

大盛況のお祭りも終り近く吉村さんは「こうしてみんなで楽しみ、喜んでもらえるPRも絶対必要だなあ、と再確認しました。約十五万円ほどの費用も、長い目でみれば絶対必要な経費ですね」と語っていましたが、今回の〝Go Go YAMAHA・よしむら祭〟開催までをうかがってみました。

創業二十六年目、一坪のお店にわずかの工具で始めたご商売も、家族5人のチームプレーでいまではオートバイ部、自転車部、ガソリンスタンド部と間口をひろげています。

これまでは温泉や観劇会ご招待セールなどで、地元の人に商売で得たものを少しでも還







（上）〝エー、焼きそばはいかが〟〝仮面ライダーのお面を買おう！〟と、屋台が軒をならべての盛況ぶり

（左上）近在の人、およそ約1,500人があつまってＰＲ効果も絶大です

（左）新しい〝お祭り〟を演出し、地元の人から来年も――の好評を博したよしむらさんのスタッフ。前列は吉村庸造社長と奥さまのなおさん。後列左から次男の忠造さん、長女の成子さん、長男の一男さん

元しようと心がけてきた吉村さん。人口約二万人、のどかな農業地帯の八千代町で、恒例的に「よしむら祭」を開いて、町の人びとに楽しんでもらっているのも、その一環です。

「今年はどんな楽しい催しになるのだろう」町の人びとの期待に「ことしはどんな企画で喜んでもらおうか？」と頭をヒネっていたところに「Ｇｏ　Ｇｏ　ＹＡＭＡＨＡ」の開催を知って、「これだ!!」と直感。「商売と密接に結びつく感謝祭」としてことしのよしむら祭が実現したのです。

ヤマハ茨城㈱・筑波営業所と「やりましょう！」とちかって歩調を合わせてスタート、三日目にはポスター、横幕、カタログなどのツール類のリストアップ完了というスピードぶり。

舞台設定や照明のプランもトントンと決まり、あらためてヤマハとともに……の感をつよめたものです。

バックバンドの賛助出演や、屋台、交通整理、ゲスト、そして司会者……、すべての人が吉村さんやお店と結びつきのある人。花火屋さんもそう「昨年と同じ値段で、三〇発を上げさせてもらいました」

こうして、お店、ヤマハそしてお店をとりまく人びとが一体となって展開した、ことしの〝よしむら祭り〟。Ｇｏ　Ｇｏ　ＹＡＭＡＨＡは八千代の恒例行事をはなやかに盛り上げ、ＹＡＭＡＨＡとお店をつよくお客さまたちに印象づけたのです。

50cc.レジャーバイクを中心に Go Go '74ヤマハフェスタ開催

ヤマハ島根株式会社



いっぽう山陰の島根県松江市では、多数のフレンド店さん共催のもとにヤマハ島根㈱が四月十三、十四日の二日間にわたって、50cc.レジャーバイクを中心にした「Go Go '74ヤマハフェスタ」を開催、安全運転コンテスト原付免許教室なども併催して終日お客さまでにぎわったものです。

松江日市朝日町のカタクラボーリング場の駐車場を会場として開催された、このGo Go '74ヤマハフェスタは、55台の展示車も50cc.車25台、プジョーサイクル15台と、レジャーバイクフェスタとして的を絞ったもの。

当然、展示会と併催の催しも駐車場に一本橋やパイロンを置いての安全運転コンテストや原付免許教室など、オートバイはこれからというお客さまを対象としたものでした。

新聞おり込みチラシでのPRも効を奏し、またボーリング場とレジャーバイクというコンビネーションもマッチして、若い女性も多数参加、大きな成果を収めました。





(上) 50ccレジャーバイクが中心、もちろん若者にはスポーツ、トレールも。
(中) 安全運転コンテストもあるゾ、プジョーでトライだ。
(下) 赤トンボ〝YA1〟も登場。ヤマハの歴史を語ります。

スポーツ レジャー

いよいよ本格的なモータースポーツシーズンの開幕です。モトクロス、ロードレース、トライアル……ことしも若者たちの活動は活発ですが、オールラウンドにわたり高性能市販レーサーをおとどけしているヤマハは、多彩なSL活動で健全なモータースポーツの世界をひろげます。従来から大きな成果を収めてつづけられている各種スポーツ教室の充実がはかられる'74年。特にTCMSに直結するモトクロス教室、わが国では初の本格的ロードレース教室が、もり上がるスポーツ熱の中で大きな注目を集めています。

モータースポーツの「楽しさと安全」をつなぐヤマハSL活動、お店でもどうぞよろしくお願いいたします。

TCMSに直結で人気を呼んだ

SLヤマハモトクロス教室



コーナーに陣どって、お互にテクニックを検討しあう。

ヤマハモノクロスサスペンションの市販モトクロッサー『YZ250』の発売など、MXシリーズを含めて一連の商品ぞろえでもりあがったモトクロス熱の中で、このシーズンの間にみっちりウデを磨いておこうというライダーや、基本を正しく身につけてモトクロスに入門しようというビギナーを対象にした「SLヤマハモトクロス教室」、「SLヤマハトレール教室」が、北海道、関東、関西、九州、四国など各地で沢山の若人を迎えて開催されました。

いずれもヤマハでモトクロスに活躍する第一線級セニアライダーをインストラクターとして、トレール走行の基礎からモトクロス・テクニックを学ぶもので、高度なレーシングテクニックまでを含めたモトクロス教室はとくに好評を呼びました。

最近のモトクロスは、ひとロにノービスとはいっても技倆の差が著しく簡単には参加しにくくなっている傾向があり、このような教室の開催は基礎訓練の場としてきわめて重要な役割を果したものです。

ここに紹介するのは、先ごろ二日間にわたって「セニアと一緒にモトクロス」と銘うち実力派セニア岩尾一敏選手を講師に、トレールランド高松を会場に、二日間にわたって開かれた四国支店主催の『SLヤマハモトクロ


「こういうギャップは、上体を移動させて……」コースを足で歩いて解説を。




休憩時間には、新登場YZ250でもちきりだ。


基本をマスターしたら、あとは走り込んで耐久力を。


大切だが、とかくおろそかにされがちなスタートの練習も、この日ばかりは真剣に。


「走行中ハンドルグリップが抜けたら……」セニアの解説は、説得力も大きい。

ス教室』です。

四国全県から集まった約五〇名の参加者は第一日目、マシンの点検、スタート、コーナー、登り下り、ジャンプ……と、それぞれの基礎課程のトレーニングをくり返し、夜は宿舎で、岩尾講師のミーティングとモータースポーツの映画会。二日目は、耐久力をつけるための走り込みと模擬レース。

「日頃はただ漫然と走っているだけですがこうしてきちんと指導をうけると、自分の欠点や走りのポイントもはっきりし、無理しなくても安全に速く走れますネ」と参加者のみなさんは異口同音に語って、5月スタートのTCMSを目指し、起伏に富んだトレールランド高松を元気一杯走りまわっていました。

☆　☆　☆

モトクロスを志す若いお客さまには、マシンや経験、技倆に合わせて「トレール教室」「モトクロス教室」そして「TCMS」と系統だてて楽しんでいただく、それがオフロードの「楽しさと安全」を確実に結びつけます。お店でもよろしくご指導を。

ロードレース志向のお客さまはどうぞ、

ロードレースを基本からマスターする

SLヤマハロードレース教室

――ヤマハレーシングスクール袋井――



コースでの実走行講習。受講生の真剣さに、熱っぽい奮囲気がみなぎる



2日目、3日目の朝は可睡斉境内での早朝トレーニングから明ける。心身ともにそう快。

モトクロスと同様、いやそれ以上にライダーの基本修得が、いまつよく叫ばれているのがロードレースです。

というのもヤマハロードレーサーTA125、TZ250／350に代表される最新市販レーサーでレース参加は容易になったものの、一部ライダーの技倆がマシンの高度化に追随しきれぬ面もあることのためです。

そこで、これからロードレースを……という人はもちろん、すでにレース参加しているライダーにも、もう一度ロードレースのすべての基本から正しくマスターし、安全にレースを楽しんでもらおうとスタートしたのが、このSLヤマハロードレース教室です。

袋井市のヤマハコースで開講されるこの教室の特長は――

三日間の合宿生活を通じ、参加人員も最少限度に絞って、インストラクターとマンツーマンに近い理想的なシステムで、ルール、マナー、マシン整備、実走行テクニック……とロードレースのすべてを徹底的に指導するものです。

そして講師は、本橋明泰、長谷川弘、河崎裕之、三室恵義といったヤマハならではの豪華な顔ぶれのGPライダー陣が担当します。

去る三月十六日から十八日までの三日間にわたり開催された初回の教室には、すでに実戦参加している十名のライダーが参加。

まず静岡県磐田市のヤマハ本社前テクニカルセンター磐田で一日目の座学。レーシングライダーとしてのマナー、ロードレースのルール、レーサーの整備が本橋、河崎、長谷川三講師によって講義されました。



座学はルール、マナー、メカ。テクニカルセンター磐田で行なわれる。



袋井ヤマハ



全課程を終えて本橋講師から修了証の授与。これがライセンス申請資格となるのだ。



より高度な技術へ。課程の進行とともに参加者の技倆も目に見えて向上していく。

席上、本橋講師は「このレーシングスクールでは、ロードレースのすべての基本を学ぶ。こうしたらよいということを中心に、後の練習や実戦で役立ててほしい。そのためにはどんな初歩的なことでもしっかりのみ込んでください」と、この教室の主旨を語りました。

そして袋井ヤマハコース近くの秋葉総本山可睡斉に全員が合宿。朝六時、澄み切った空気の中での体操、ランニングから二日目のスタートです。

二日目および三日目は、会場を袋井ヤマハコースに移し、実走行トレーニング。ストレート、スタート、ヘアピン、複合カーブと順を追ってより高度なテクニックへとカリキュラムが進み、三日目最後の待望のフルコース走行で全課程を終了しました。

下はノービスから上はエキスパート・ジュニアまでにわたる今回の参加者の声をまとめてみると「今まで自分なりにやってきていつもこれでいいのか?という迷いがあった。また、自分では知っているつもりでいたのが生半可な知識だったり、ちがっていたことがじつに多いことがわかった。基本がいかに大切であるかを身にしみて感じました。それと、夢にまでみた超一流選手とこんなに身近に接し、指導が受けられるのはスバラシイ」とロをそろえてSLヤマハロードレーシングスクールの大きな成果を話してくれました。

☆　☆　☆

なお、この教室を修了するとMFJライダーライセンスの申請資格が与えられます。今後は月一度ぐらいのわりで開催される予定です。

お店のお客さまの中で、ロードレース志向のお客さまがいらっしゃいましたら、ぜひ参加をおすすめください。詳しくは、各支店普及本部でご説明いたします。

"TZ750"初見参
河崎、片山で富士を走る
'74クラブマンロードレース

MCFAJ主催、スポーツニッポン新聞社後援の'74ロードレース日本選手権シリーズ第一戦「第19回全日本モーターサイクルクラブマンレース」は四月七日、富士スピードウェイを会場に、ノービス、ジュニア、セミエキスパート、ナショナルグランプリ、旧車、サイドカーレースなど、多彩なプログラムを組んで開催された。



"速い！"の一語につきたTZ750のデビュー。ナショナルグランプリの覇者⑯河崎裕之（プレイメイトレーシング）。写真下の㊲は同2位の片山敬済（神戸木の実）





サイドカーレースに初参加のTX750。ドライバーの池田伸也選手いわく「ノーマルのままでは、カーをひくには速すぎる。でも、レースではもうちょっと速くしたい。ドライブ側のスプロケットを一枚おとしての出場です」



サイドカーレースの大きな見どころコーナリング。フロントフォークにはXS650のスプリングを組込んだダブルとして、かたさを増したという。

呼びものの一つは久しぶりに登場の旧車レースと対象的なナショナルグランプリ。YA1やYD2など昔なつかしいモデルとの再会も楽しいが、ディトナを制した〝TZ750〟が国内初出走とあって、多くのレースファンの話題をさらった。ライダーは河崎裕之と片山敬済。時折りパラつく雨の合い間に富士の姿が見られるというコンディションの中を、疾風そのものの速さをみせてフルコース十二周、72キロを一～二位でゴールした。

また根づよいファン層をもつサイドカーレースには十六組がエントリー。凝りに凝った二組のレーサー仕様車を除いて、残りはナンバーつきのビッグマシン車の争い。意気の合ったパッセンジャーを〝フネ〟に乗せて、右に左にバランスをとりながらのレース展開はなかなか見応えのあるもの。

カワサキ、ホンダ、BMWなどの中にあって、ヤマハスポーツTX750のノーマル車がただ一車出場していたが、スタートからダッシュをみせて改造車を追う。ライダーは群馬県のフレンド店さん池田モータースのご主人、池田伸也さん。パッセンジャーは義弟の星野晴夫さん。地を這うようなスタイルの改造車組につづいて、ショートコース4.3kmを五周、総合三位を得て実力のほどを示した。

本誌のインタビューにこたえて池田さんは「サイドカーは楽しい乗物ですよ。若い人の関心も高いので将来が楽しみです。ただ、カーの値段が本体以上にもなるのが悩みです」と、愛車にまたがって語ってくれた。

ともあれ、バラエティに富んだレース内容で、いよいよSLシーズンは開幕した。

'74全日本選手権シリーズ開幕

MX90/125/250 YZ125/250 YZM125/250 ヤマハ勢、8クラス優勝を飾る!!

開幕遅しと待たれていたMFJ'74全日本選手権シリーズの第一戦「谷田部モトクロス大会」は、快晴に恵まれた四月第一週の土曜日(六日)、日曜日(七日)にかけて熱戦の火ぶたをきったが、YZ群、MX群のヤマハ勢は各クラスでレースの主導権をにぎり、全関東ノービス大会を含め10レースのうち実に8優勝を独占する圧倒的な勝利を収めて、まずは順当のスタートをきった。

一カ月の延期 集うファン五千人

例年、三月には行われるこの大会も、ご存知の情勢から約一カ月遅れての幕開けとなったが、レースに対する参加選手の意気込みはすこぶる高く、観客の出足もまた好調。ノービス(全日本選手権はかけられてない)、ジュニア・クラスを中心に行われた土曜日にも多数のファンが三〇〇円の入場整理料を支払って来場し、ひいきの選手、クラブに熱心な声援をかけているのが目立った。

会場はすでにおなじみの日本自動車研究所特設モトクロス場。関東平野を一望のもとに見渡せる筑波山の麓にちかい谷田部町(茨城県)にあり、東京からの交通の便は国鉄土浦駅から車で30分というところ。

他のモトクロス場と同じく決して交通至便とはいえないまでも、すでに6年の実績は高く、また今年初の〝全日本〟とあって、地元をはじめ、東京および近郊のモータースポーツファンの関心はさすがに高い。二日目には家族ぐるみの観客などおよそ五千のファンがあつまった。

出場総数五三七台 MX、YZ各クラスで活躍

一周5.5キロのオーバル型テストコースの内側につくられたモトクロス場は、関東ローム層特有の土壌で、晴れれば土煙りが行手をふさぎ、降ればまたツルツルのぬかるみとなるところ。しかし、赤い土煙りを浴びながらもこの第一戦をみようと出かけてくるファンの目には、たんにスピードを追う、スリルを追うのみにとどまらず、人車一体となったコントロールの技術、性能を高める新しい開発技術に期待する熱意がみられたものだった。

このような雰囲気の中にあって、レースは次々とくりひろげられたのであるが、その参加総数は五三七台。まず初日のノービス、ジュニア・クラスでは、市販モトクロッサーMX勢、YZ勢が大活躍、高度のレース内容をみせて会場を湧かせた。

結果は九州から遠征してきた光安鉄美選手がMX90、YZ250でノービスのダブルウィナーをとり、これにYZ125の佐藤敏和選手が花をそえてヤマハ勢の独占優勝、またジュニア・クラスでも、同じく九州の大賀広美選手がMX90、YZ125でダブルウィナーとなり、これに関西の雄、YZ250の谷川徹二選手が首位をとってまたヤマハ勢にがい歌があがった。さらに注目すべきは、この四選手はいずれもトレール杯すなわちTCMS戦を経てのチャレンジャーとして、この栄誉をかちとったことである。健全なモータースポーツの世界を広げるヤマハの成果がここにみられるというものだ。

つづいて二日目、エキスパートジュニアの二レースは、九州の樋口勇二選手がYZ125、YZ250でトップをきったが、最終周に惜しくもかわされ、2位に甘んじた。しかし今後のレースへの期待は大きい。

秀明、瀬尾で 注目のセニア征覇

そして注目のセニア・クラス。今年は40分プラス2周でゴールを目指す。まず125ccレースでは昨年と同様に秀明、都良夫の両チャンピオン兄弟がみごとな編隊でトップを競い、これにセニア昇格初レースの石井正美、木下信安がつづく。

前半は快調に飛ばす都良夫に秀明が追うかたちであったが、中盤から秀明が都良夫をリード、高度なテクニックを存分にみせて、ヤマハ勢は上位から4位を占め、予想にたがわぬつよさで勝負をきめた。まさに、技術のヤマハ順当の勝利である。

つづく250ccレースは。かたずをのんで見守る観衆の視線の中を一斉にスタート。巻きあがる砂塵。さすがに迫力がある。

トップはだれか? ライトグリーンのマシン、竹沢正治に川崎利広である。しかしリードはわずか。これに各社のエースが一団となってつづく。しかし、やがて都良夫、秀明、瀬尾のヤマハ勢がスパートをかける。五周目、およそ十分を経過したところで瀬尾がトップに立つ。速い! ヤマハモノクロスサスペンションの成果、トルクインダクション・エンジンのつよさを存分に発揮しての快調なレース運び。二位以下をグングンひきはなして〝ダントツ〟を決めた。

「さすがヤマハ!」の歓声の中で、早くも四十分を経過。残すは二周。もう勝利は不動のもの。コーナー、コーナーを確かなテクニックをみせてゴールに飛びこむ瀬尾勝彦。ここにヤマハの勝利は決った。

レース途中で、腰を痛めていた都良夫はリタイヤしたものの、YZM勢は3位に石井正美、4位に秀明、5位木下信安、6位岩尾一敏、7位杉尾良文、9位鈴木忠男と、みごとな成果をおさめたのであった。

前述したとおり、例年とは異るレース・スケジュールとはなったものの、谷田部に集う若人のパワーは、こうして待望の〝全日本〟をもりあげ、'74シーズンの開幕を心から喜びあったのである。

優勝

セニア125cc級
鈴木　秀明

実弟(1)都良夫を従がえてダイナミックな走法でレースをリードする(2)鈴木秀明(遠州ライダース)



優勝

セニア250cc級

瀬尾　勝彦

いわゆるウマさはセニア級ずいーという専門家筋の評判どおり"ダントツ"で第1戦をみごとな勝ち星で飾った瀬尾勝彦(エキスプレスMCC)







優勝

ノービス90cc/125cc級

光安　鉄美

(福岡フリーダムユニティー)



優勝

ノービス125cc級

佐藤　敏和

(杉尾レーシング)



優勝

ジュニア90cc/125cc級

大賀　広美

(熊本レインボーセブン)



優勝

ジュニア250cc級

谷川　徹二

(北山レーシング)



2位

エキスパートジュニア125cc/250cc級

樋口　勇二

(福岡プレイメイトレーシング)

MOTOR SPORTS HIGHLIGHTS

'74全日本選手権シリーズ開幕



（右）ぐるり人垣がつくられたヤマハのパドック

（左）さあ、もういっちょう行こう！　出走準備に忙がしいメカ&ライダー

新発売

YAMAHA RED ARROW

RC-100M

ＳＬ活動の新しい分野としてカートの人気が静かな盛りあがりをみせているとき、新たな商品として『ヤマハレッドアローRC-100M』が誕生しました。この新商品は従来のモデルに増して走行性能を高め、即レース参加できるものとして完成されているものです。新設計のカート専用エンジン、さらに軽量化された車重、整備性に富んだ二分割式スプロケットやハブ・ホイールなど、カーターの目をひきつけずにおかぬ内容が決め手です。









■ハンドルはヤマハ独自の直接式ダブルステムステアリング(クッションラバーモールド)方式を採用、すぐれた操縦性を確保。
■大容量のマフラーは排気音減少装置を組込んだサイレント方式。静かなカートを実現。

■アルミダイキャスト製のハブおよびスプロケットハブ、アルミ合金製のリムおよびスプロケットホイール(２分割式)の採用で、軽量化を図ると共にタイヤサイズ、スプロケットの変更もスムーズなものとしている。

主　要　諸　元

全長	1,735mm
全巾	1,063mm
ハンドル中心高	470mm
ホイールベース	1,040mm
トレッド(前)	787mm
トレッド(後)	943mm
重量(エンジン共)	57kg
操向装置	直結ダブルステム式
トーイン	1°
キャスター	16°
キャンバー	−3°
キングピン角	13°
キングピンオフセット	70mm
トレール	30.5mm
タイヤ(前)	グッドイヤー3.50−5
タイヤ(後)	グッドイヤー4.50−5
ブレーキ	(リヤのみ)油圧ディスク
フレーム部材	高張力鋼管
フロアープレート	FRP製
燃料タンク	4.5ℓ(FRP製)
キャブレター	三国VM26
エンジン	MT100DK (自然空冷)
点火方式	CDIマグネトー
動力伝達	チェーン直結(DID35)
減速比	7(70／10)
クラッチ	自動遠心式

カート普及も急ピッチ

JAF公認
カートインストラクター講習会ひらく



カートレース界の情勢について熱心にメモする受講生

新しいカート『ヤマハレッドアローRC—100M』の発売もあって、カートの人気はいよいよ高まりつつありますが、さらに多くの人にカートの楽しさを知ってもらおうと、JAF（日本自動車連盟）公認のカートインストラクター認定講習会が三月三十一日、四月一日の二日間にわたってひらかれました。

当日は、特別聴講者を含む六十名の受講生がヤマハ本社特設教室に集り、JAFカート役員による国内外のカート情勢、カートレース規則などの講義を受講、また二日目は会場を清水サーキットに移して、カートの基本的な取扱いからレース実走行におけるテクニックの実技講習を修得、新人カーターの育成に必要な指導要項をマスターしました。

これでJAF公認カートインストラクターは一挙に倍増、全国各地でJAF公認のライセンス講習会がひらかれることになります。

また『ヤマハレッドアローRC—100M』の発売を機会に、全国的な規模で〝SL杯争奪カート選手権シリーズ〟も開催されることになり、新しいモータースポーツの一分野がヤマハの手によりまた大きくひらかれることになります。フレンド店みなさまのご協力をお願い致します。


カートの基本、専門用語などについての解説もうける


人気を呼んだ実技講習。カートは〝ヤマハレッドアロー〟

完璧な整備技術をマスターして
成果あがるヤマハ技術講習会



商品の理解度を高めると同時に、整備技術の基本から応用まで、全般的な機械知識の修得をめざす『ヤマハ技術講習会』がスタートしました。

ここにご紹介するのはヤマハ本社における〝Mコース・2サイクル単気筒〟の実習。三日間の内容は別記のとおりですが、本社営業技術課の専任講師によって次々とくりひろげられていく整備技術の講習に、明日のお店を担う若い仲間の真剣な耳目が集まりました。



座学。経験ゆたかな講師から、オートバイ工学の基礎を学ぶ



掛図をもとに各部について、さらにくわしい構造解説が……



スライドも使って、さらに講習の内容が高められていく



実車を使っていよいよ本番。いつもは見慣れているヤマハも何か新鮮に見える。

1日目。午前10時開講。

全国各地から参加した受講生の顔には、これからさき3日間にわたる講習にかける意気込みがみられる。

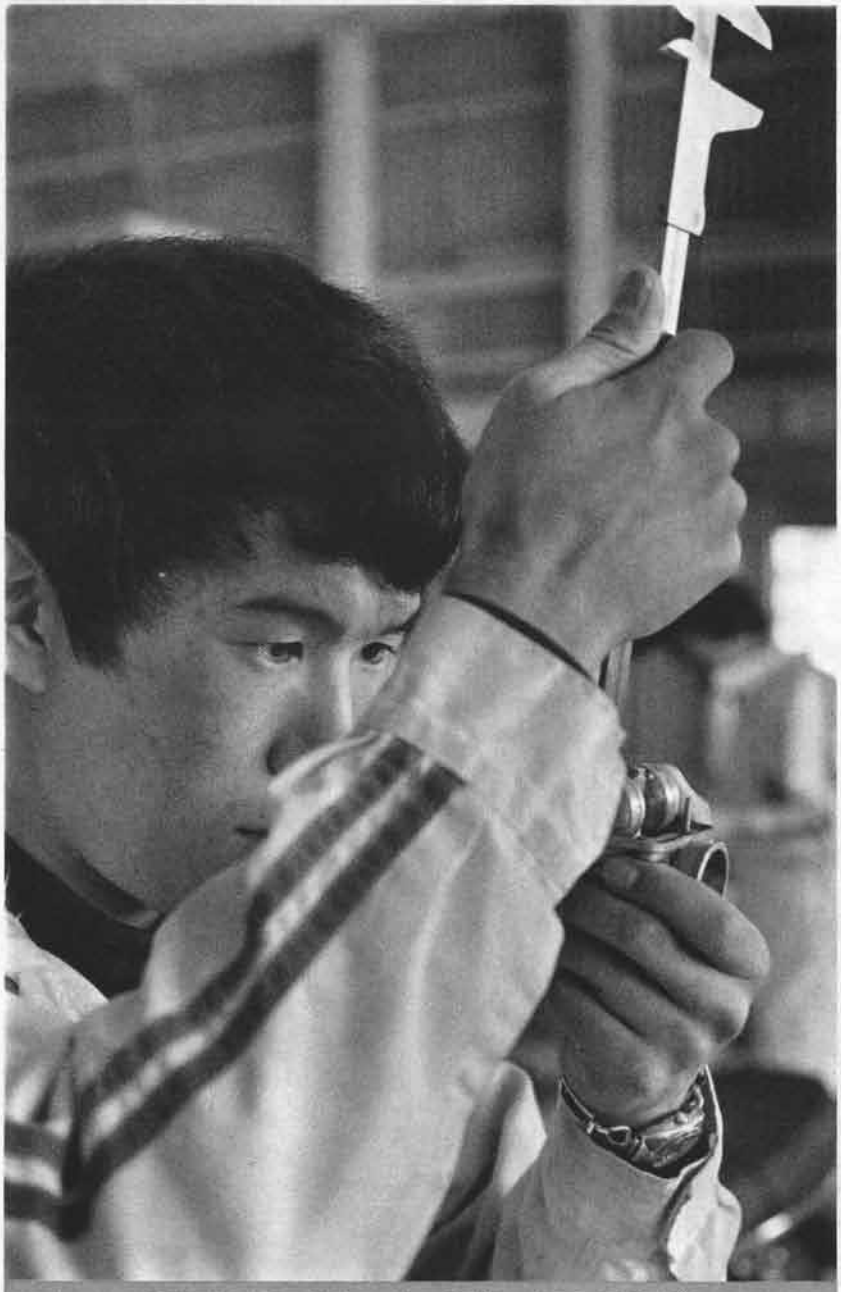
今回の担当は本社営業技術課和田主任、宮本主任、坪井社員の三講師。ヤマハメイトV50／V70、トラブルシューティング、高圧縮ポンプ、VMキャブレター、オートバイ工学電装編、エレクトロテスターの取扱い、ヤマハポケットテスターの使い方……などのテキスト類が用意され、いよいよスタート。

〔この日の講習内容。2サイクル・エンジンの基礎説明、潤滑（オートルーブポンプの働き）、クラッチ（自動遠心式、オートマチック、手動タイプ方式の講造）、変速機（ドッグクラッチとボールロックほか）など、各部の構造と分解実習〕

2日目。7時起床。

宿舎の朝は早い。食事をすませ、8時40分に迎えのバスでヤマハ本社へ。2日目ともなると、連絡バスの中は〝同職の友の集り〟。商売上の話もでたりして、あれこれと話がはずむ。

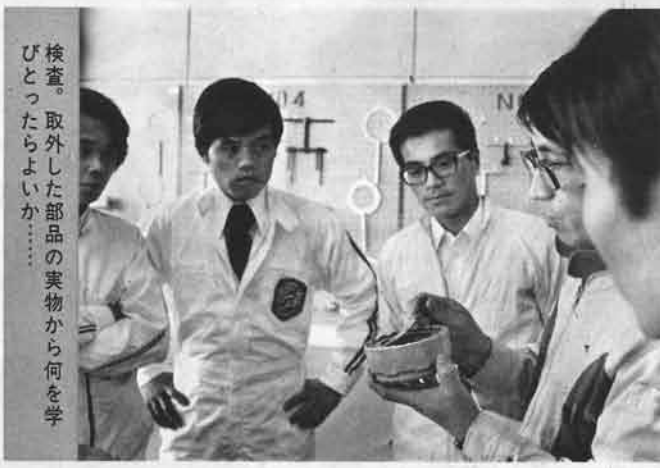
きょうの講習は9時開講。初日に増して質問もポンポン飛びだす。小数制をとって、マン・ツー・マンの形式でピッチはあがる。用意された専用工具やテスター、カット・エンジン、実車など、機械をフルに使っての講習は午後6時までつづいた。



計測。きびしい検査のマナコが光る。カンに頼る整備から、正確な数字が証明する技術へ整備内容は変る



分解。正しい工具を、正しく使って、順序よく……



検査。取外した部品の実物から何を学びとったらよいか……



組立。取外した部品を正しくならべてその構成を知る

〔2日目の講習内容。キャブレターの原理と調整方法、ワイヤー類調整、点火方式のいろいろ、点火時期合わせの実習、ポイント修正交換、点火プラグの選定、テスターの取扱い方、信号、照明系統の点検調整〕

3日目。修了式。

いよいよ講習最後の日。前日にひきつづき電装関係のトラブルシューティングで講義は始まった。とかく電気関係はむずかしいものとされているが、基礎さえしっかりのみこんでおけば恐るにたりない。

専用のテスターをテキパキと使いこなして次次と与えられた課題をこなしていく。

それにしても充実した工具、テスターの威力はたいしたもの。「これからのサービスはこうなくては……」の声も聞かれる。

3日間の成果を示すかのごとく、熱中した面面の手が作業台の上を動く。こうして予定のスケジュールを終了。全員に修了証書が手渡され、意義ある三日間を終った。

〔最終日の講習内容。充電系統、始動系統の構成内容、フライホイールマグネトとDCダイナモ、電圧・電流の測定、各テスターの使用例、車体関係全般〕

なお、この『ヤマハ技術講習会』は、〝RDコース〟〝TXコース〟があり、支店各地区でも実施されております。



各車、各仕様の実車を使って、確かなウデを磨く技術講習会。



3日間の特訓をうけて修了証を手に。"さあ、やるぞ！"

マン・ツー・マンで質疑応答もきわめて明解に処理されていく





工具は整備士にとって武士の刀。所定の位置に正しく収納

こんにちは ヤマハ です

美光、お前にまかせたよ！

埼玉県越谷市越谷本町11－2　原サイクル商会　☎0489－(66)7117
原　敏郎さん
原　美光さん



赤トンボのYA1からヤマハを手がけてきた敏郎さん(左)からバトンをうけついだ美光さん(右)。やる気じゅうぶんの若社長だ。

「父が立派な土台を築いてくれた。この土台の上に、いかに大きな城をつくるか、それがこれからの私に与えられた仕事。いろいろと胸に秘めていることはあるが、プランばかりでなく、〝即実行〟できる体力をはやく身につけたい――」

国道4号線を東京から北におよそ25キロ。越ケ谷市を横切る元荒川の手前左に、きれいにディスプレイされた「原サイクル」さんのお店が見出せます。

内燃機関の整備士として腕を鳴らしていた原敏郎さんが、これからは自転車＆オートバイの時代と、人心混とんとしていた昭和二十二年にオープンしたお店です。

そして、いま経営を引継いでいるのはご子息の美光さん(26才)です。

内に満々たる闘士を秘めて、いまハンドルを手にした原美光さん。今月は、この若き経営者を訪ねて、二輪車販売の抱負をうかがいました。



店頭にずらりならんだ商品。左手に中古車展示コーナーがあり、この店の右に新しい形態のバイクショップをつくりたいというのが美光さんの構想だ。



店内に入ってすぐ左のパーツコーナー。

週単位の新しいディスプレイ

越谷市の人口は12万余。東武線が地下鉄と連絡して都心乗り入れが実現して以来、ベットタウン化が急ピッチですすみ、ここ数年で急激な人口増をみせています。

それだけに、感覚的には完全な都会志向型で、いわゆるしゃれた感じが好まれているようです。このようなことから、原サイクルさんではディスプレイについて、とくに細心な注意を払っています。

「原さんのところのいちばんの特徴は、一週間もするとディスプレイがまるで変わってしまう。店内がオートバイ一色でかためられていたかなと思うと、その次は自転車がずらりとならんでいる。あっ、と思います」とは担当の埼玉南営業所松浦主任のことば。



担当の埼玉営業所・松浦主任

「ええ、模様替えのサイクルは、完全に意識的に実施しているんです。ディスプレイがいつも同じであれば、店の前を通る人もなんとなく見過してしまいますものね。ですから店内も、店頭もフルに活用し、常に新しいイメージをうちだしているんです。先日も、ある商品をおさめにきた人が、お宅は来るたびに新しくなっている、なんていわれました。

たしかに片手間の仕事で出来ることではありませんが、商品配置を変えることで、全商品をじかにさわることができますし、ホコリも払って、磨きもかけられる。それに売上げの効果も大きい。ちょっとうまく表現できませんが、直接、間接にいろいろと得るものがあるんです。これは今後とも原サイクルの特色としてつづけていきたいですね。」

"さわるショッピング"の店頭セールス

店内をショーウインド形式に、明るく飾りたてた。その店頭に、ずらりとオートバイがならべられ、道行く人の目をひいている。店の左側には手入れの行届いた中古車展示のコーナーもつくられている。

「ここは、これといった産業もありませんので、殆んどの人が都心に向う。それで、駅までの足として、自転車、バイクの需要が多いんですが、そういう用途のものは中古で安いものでないと駄目なんです。何故かというと、駅前の一時預りはいつもいっぱいで、適当な

下校時間はこのように若い人のたまり場ともなる。





バイクが好きで、アルバイトから正社員となった今井さん(左)。メカの腕も一流だ。

空地においておくことになる。そうなるといいものは盗まれる恐れがあって、なかなか新車には手がだせないんですね。

ですから中古車はよく出ます。いまはタマ不足といった状態で、下取車大歓迎です。ですが、バイクの場合は安全性の問題が大きくからんできますので、そうそう安いものというわけにはいきません。この辺が問題となりますが、やはり中古車といえども、いまは見栄えのよいもの、スタイルは古くとも〝きれい〟さが要求されますね。

たとえ性能がよく、安全性が万全であったにしても、見すぼらしいものは駄目です。ですから、うちの場合は、パリッと磨きをかけてます。手間はかかりますが、値打ちも出ますし、回転もはやい。

ときには近在の若い人にアルバイトで磨いてもらうこともあるんです。まだバイクはもてない人でも、バイクにさわりたい人は多いですし、しかもアルバイト代が入るというんで喜んでやってくれます。こうして若い人と一緒になることは、若い人の考え方や、いろいろな話題が耳に入りますし、こちらにも勉強になるんです。

たとえば、いまは中学生時代からファッション性に目覚めている。自己の主張をもっている。なるほどナーと思うことがよくあります。成長のテンポがすごくはやい。

こうしたことから、私はヤングを大事にしていきたい、そしてヤングに好かれる店づくりにしたいと考えているのです。」

昨年から今年にかけて、バイクの出足は好調。いままでサイクルと半々ぐらいの実績であったものが、バイクの伸張率が格段に高まってきているという。そしてその多くが店頭で売れているとか。〝さわるショッピング・原サイクル〟のつよみである。

見せられるサービスで、新しい城づくりを目指す

「父が築いてくれたこのお店を土台に、私はさらに大きな城を築きたい。これからの二輪車販売は、セールスとサービスをきっちりと分け、サービスも、お客さまにみせられるサービスに育てたい。それで、〝技術の原サイクル〟を徹底するために、ヤマハ本社の技術講習会にも率先して参加しました。

汗くさい作業服で、しゃがみこんで作業をしたり、かじかんだ手を火にあぶりながらのサービスではお金もとれません。四輪の大手デーラーのように、窓越しにサービス工場が見られ、テキパキとサービスしているさまが手にとるように分かる。なるほどナ、と見せられるサービスショップ、それがとりあえず第一の目標です。いま店の隣りの地所を地主さんと交渉していたところですが、ここには

バイク部門の店舗をつくる予定です。

いろいろと胸の中には秘策があるのですがまだまだ体力不足。〝即実行〟には結びつけられないのが残念ですが、それも勉強のひとつと考えています。」

ヤマハ本社で行われた技術講習会では、本来の目的のほかに、各地の若い同業の仲間と胸襟をひらいて語りあえたのが楽しかったという。地域差によって、いろいろとある商売のやり方を、明け方まで話しこんだとか。

DM作成2000通 スタッフ全員で作成

「いま新しいDMをつくっているんです。」と見せていただいたのが左のコピー。ヤングと一体となった呼びかけである。衣料屋さんと手を組んで、新しいTシャツづくりを提案しているのが目新しい。つねにヤングと共にありたいという美光さんの発案である。

原サイクルさんでは、こうしたDMを定期的に流して成果をあげている。三月の卒業式シーズンには、近在の五校の中学卒業生に対して750通、Go Go YAMAHAのようなセールス・キャンペーンではお店のすべてのお客さまを対象に2000通のDMを作成した。宛名書きに二日間を費やしたという。

また、部品・用品類の充実にも気を配り、それぞれの専門店と提携し、原サイクルさんからお客さまを紹介、特別価格で提供をうけられるようにしてあるのも特色の一つ。したがってお店には通りがかりのお客さまが必要なものだけしかおいてない。「大きな用品庫をもっているようなものです」という。これもプランナーは美光さんである。

お店のスタッフはご両親に奥さまと、アルバイトから正社員となった今井英寿さんの五人。営業担当の美光さんを補佐してお父さんが総合管理を、お母さんが接待、奥さまが経理、サービスが今井さんと、それぞれの担当をきめているが、「美光にすっかりまかせたよ」とはお父さんのことば。

定休日は月曜日。日曜日と、学校がひけてからの時間がいつもきまって忙がしいとか。ヤング好みのバイクを中心に、さらに大きな城作りをめざす原サイクルさんである。





モノ・サスの威力を存分に発揮してみごとな初優勝(ベルギーラウンド)



熱心な英国ファンの注目を一身に集めるミックとYZT250(英国ラウンド)

ヤマハモノクロストライアル YZT250 活躍

'74トライアル世界選手権シリーズ

一月六日のシリーズ第一戦のUSラウンドを悪天候にたたられておとしたヤマハのエース、ミック・アンドリュウスは、第二戦のアイルランドラウンド(二月十六日)に、ヤマハ新開発のモノ・クロス装備のYZT250をひっさげて登場、総計一〇〇のオブザーブドセクションで、バランスとコントロールの妙技を示しました。

新式マシン使用の初競技とあって、乗り方はどちらかというと慎重でしたが、ベストパフォーマンスのB・エドワーズ(モンテサ)に七点差で堅実にランナーアップになりました。

YZTのモノ・クロスサスペンションは、競技の性格上モトクロスマシンのそれとくらべると、ぐっとスリムにまとめられていますが、ラフな路面でのグリップの良さが印象的でした。

さてシリーズ第三戦のベルギーラウンド(二月二十四日)、ミックはモノ・クロスヤマハを思う存分に乗りこなし、ライバルのM・ラスメル(ブルタコ)に9点の差をつけてベストパフォーマンスになりました。

次のスペインラウンド(三月三日)も大いに期待されていましたが、セクション間移動の最中、コースにまぎれこんだファンのオートバイに接触するというアンラッキーなできごとのため結局八位になりました。

新開発の燃料噴射装置をつけたYZT250がデビューした三月十六日の英国ラウンド、アンドリュウスは悪性の風邪をおして出場、ラスメル、ベステリネン(共にブルタコ)と一点を争うクロスしたゲームを展開し、首位にわずか二点の差で惜しくも三位。

選手権争いのポイントでは依然二位にがん張っていますが、ニューヤマハの性能に満足したと語るアンドリュウスの中盤戦からの追い込みがみものです。

海外からも参加

TC磐田安全運転教室

日本で初めて、二輪ライダー専門の教習所として公認されたテクニカルセンター磐田でのオートバイ安全運転教育はいよいよ活発です。

最近では海外からの参加も見られるようになり、三月上旬には、イランとナイジェリアからのヤマハ・ディーラーのセールスマネージャー二名が、施設の完備したTC磐田で数日間にわたり、みっちりと安全運転の特訓を受けました。テュンドゥ・アレンさん（ナイジェリア）とダニエル・ヴァルデさん（イラン）の二人は、三月から四月にかけての約一ケ月半、磐田本社をはじめ、各地のヤマハ営業所を訪れ、オートバイや船外機のメカニックとしての修業を積んだものです。

イランやナイジェリアでは、ヤマハを始めとするオートバイがこの数年来急速に普及していますが、ライダーの安全運転教育の面では、日本に較べてまだまだ立ち遅れているのが現状です。日本の若者と一緒になって勉強した両国のセールス・マネージャーは、このような素晴らしい施設は大変うらやましいと同時に大いに参考になると語っていました。



収益金を交通災害遺児に

SL愛知チャリティモトクロス大会

愛知県春日井市のヤマハフレンド店・オートスポーツ名古屋（沢田恒康社長）では、トレールランド愛知でチャリティモトクロス大会をシリーズ戦で開催し話題を呼んでいます。

3月3日の第1回大会には120名が、また4月14日の第2回には雨の中にもかかわらず100台のモトクロス愛好者がつめかけて人気を博したものです。

この大会の特色は、収益金のすべてを中日新聞社を通じて交通災害遺児に寄付するということ。

さらに初めてモトクロスに参加する人、まだ入賞経験のない人たちのためにフレッシュマン・ノービス部門（F・N部門）を設けたりして、多くのお客さまに楽しんでいただいているというものです。



ご存知ですか!? 二・六人にひとりが免許所持!

「オイルショックなどの影響で交通事故は大幅に減っているが、運転免許取得者人口は逆に急増している」――警視庁が先ごろまとめた昨年の〝ドライバー白書〟の報告です。

それによると、昨年十二月末現在の運転免許所持者は、全国で三千七十七万八千七百七十八人。昨年一年間で百三十万四千百三十五人の新ライダー、新ドライバーが誕生しています。

この数を免許取得資格年令の十六才以上の人口と比較すると、じつに二・六人にひとりが運転免許証を取得していることになります。大雑把な男女の比率は四対一。しかし、ここ数年女性の増加がめだち、六・五人にひとりの女性がいまでは免許証を持っている計算になります。

また年令別では、二十五才から二十九才までが五百四十二万八千百七十二人と最も多く、ついで二〇才～二十四才、三〇才～三十四才、三十五才～三十九才の順。なんと二十五才～二十九才代では、一、七人に一人、うち男は一、二人、女は三、三人にひとりの人が運転免許証を持っているのです。

四十五年ごろから年に百二〇万から百三十万人のハイペースで増加し、ことしの末には三千二百万人を越えるライダー、ドライバーが誕生するだろうといわれています。

お客さまの対象、誹求ポイント、アピールのしかた、お店のご商売に有益な、明るいデーターを提供している「ドライバー白書」ではありませんか!?



プジョーコーナー拝見!!

株式会社・東京サイクリングセンター
東京都武蔵野市吉祥寺南町4－10－12
TEL. 0422(43) 7638

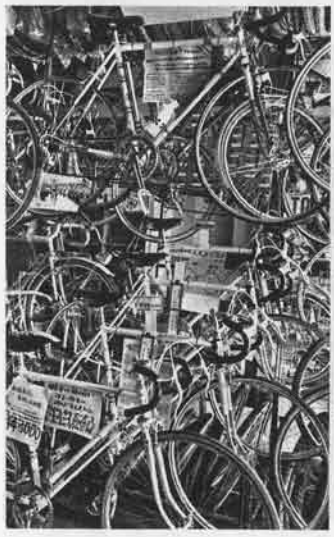
武蔵野市吉祥寺の井の頭通りに面した鉄筋四階建のモダンなビル、ここの一階が東京サイクリングセンターさんのお店です。

外観と同様に現代的に、整然とレイアウトされたショールーム。なかでもショーウインドの〈幻の名車プジョー〉の文字と、プジョーコーナーが、道ゆく人にあざやかな印象を与えています。

この道二〇年、実用車全盛の時代からいちはやくスポーツ車時代を先取りし、手がけてきた東京サイクリングセンターの板倉修一郎専務は「プジョーサイクルは、高級車という印象で売っていますから、プジョーコーナーがあるお店、ということで店のイメージアップにつながります」と話してくださいました。

サイクリングマニアのお客さまが多く、通信販売も活発に行なっているので、遠くからお見えになるお客さまも多く、日本全国から註文の便りも多く寄せられているとか。

壁にかけられた納品発送予定のリストの件数の多さが、盛んなご商売のほどを物語っていました。





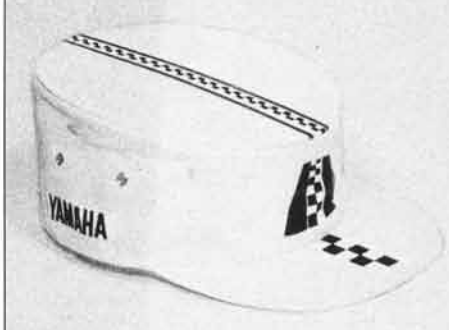
板倉修一郎専務

陽気のよい時期、ヤマハが目立つ。

なにかと気分が新しい。お店の中も、お店の外も。5月は男の季節。新しいヤマハウェアをおろし、ハットをいきにかぶって、どんと大きなご商売を。お店の方みなさまに、そしてお客さまにもぜひ、おすすめください。
(お申付けは担当のヤマハマンにどうぞ)



012401　帽子



012441　トレール帽子



012403　半袖セーター(白)



012404　半袖メリヤスシャツ(白)
012406　半袖メリヤスシャツ(黄)
012407　半袖メリヤスシャツ(青)



012417　長袖セーター



012411　長袖メリヤスシャツ(丸首)



012408　長袖メリヤスシャツ(白)
012409　長袖メリヤスシャツ(黄)
012410　長袖メリヤスシャツ(青)



012412　長袖メリヤスシャツ(白)
012413　長袖メリヤスシャツ(黄)
012414　長袖メリヤスシャツ(青)
012415　長袖メリヤスシャツ(赤)
012416　長袖メリヤスシャツ(緑)

チャピィとプジョーを配した
新しいデザインのＰＲ用マッチが
できあがりました
お名入れは2000個から受承ります



012101　マッチ

PEUGEOT

プジョー・フランス

エレガントなフレームライン
洗練されたカラー
プジョーのミニサイクルは
パリのいぶきを伝えるニューファッション
ハンドルやサドルの位置が
ワンタッチで調節できるのも大きな魅力
ご家族のどなたにでも
気がるにお乗りいただける
売りやすさいちばんのプジョーミニ
どうぞよろしく——

vélos mini

全車に共通、ミニの特長

ハンドル調整



サドル調整



テールライト



そのほかマーティン製プラスチックサドル、ペレーブルクイン製センタープルキャリパーブレーキ、アルミエアポンプが標準装備。



NS40

外装4段サンブレックス製パンタグラフ式
ブラウン/レッド/オレンジ/ホワイト/ダークブルー



PNS22

ネイマン製折りたたみ式フレーム
レッド/ホワイト/オレンジ/ダークブルー



NS22

標準仕様モデル。重量15.8kg
ダークブルー/レッド/オレンジ/ブラウン/ホワイト

ヤマハニュース5月号●昭和49年5月1日発行●発行所：ヤマハ発動機株式会社＝静岡県磐田市新貝●発行人：小池久雄